

東さち子様

平成 19 年 7 月 18 日
独立行政法人 放射線医学総合研究所
理事長 米倉義晴

ご質問についてのお答え

この度は、放医研一般公開での「実験動物ふれあいコーナー」における動物の取扱いにつきまして貴重なご意見をいただき、ありがたく御礼申し上げます。

私どもは放射線医学総合研究所の研究開発業務についてより広くご紹介したいとの思いから、同日、多くの企画イベントを開催いたしました。この中で、東様よりご指摘いただきました「実験動物ふれあいコーナー」の是非につきまして、千葉県動物保護指導センターのご意見も踏まえた上で所内で検討させていただきましたが、ご指摘のように動物愛護の観点等で種々の問題点のあることから、次年度の一般公開より同コーナーの開催及び実験動物の展示を中止することにいたしました。

以下、先に書面にてご質問いただきました項目につきまして、ご返答申し上げます。本回答に付きまして、直接の説明をご要望の場合は、ご遠慮なくお申し付け下さいますよう、お願いいたします。

1. このように実験動物を犠牲にしてまで触れ合いコーナーを開催するという意義はどこにあったと貴施設ではお考えですか？

- 放射線医学総合研究所は、国費によって運営されている研究機関として、研究所の活動を広く知っていただくため、できる限り多くの内容を一般市民の方に公開しようと努力しています。放射線の医学利用、緊急時の医療、人体への影響など、放医研の主要な研究を行うためには、動物実験は不可欠です。また、一般的にも医学・生命科学研究には動物実験は不可欠となっており、実験動物としてのマウスはきわめて重要な存在となっています。一方、小中学生の理科離れが問題視されており、私どもは、“見て”“触って”体感していただくことが、人類の健康と福祉に重要な役割を果たしている生命体である実験動物としてのマウスの存在をご理解いただく第一歩になるものと考えおりました。

2. 貴施設の実験動物管理の体制はどのようなものとなっているのでしょうか？ 今回のイベント開催の最終判断・責任は誰にあったのでしょうか？

- 放射線医学総合研究所基盤技術センター実験動物開発・管理課が放医研の実験動物の管理を担当しています。実験動物は、動物実験等実施に関する規程、作業要領に依って管理しております。また、理事長の諮問機関として、動物実験委員会があり、実験動物に関する審議にあたっております。平成 19 年年度所内一般公開は、これを企画した企画部長、実験動物公開を行った基盤技術センター長の責

任で開催しましたが、最終責任は理事長にあります。

3. 施設公開イベントに用いられたマウスはどのようなマウスですか？
遺伝子組換えされたものでしょうか？

- ・ 4系統、総計 14 匹で、すべて当所で自家生産されたマウスです。衛生的に統御された清浄（SPF）マウスで、遺伝的に統御された近交系マウスであり、遺伝子組み換えマウスは含まれておりません。

4. 施設公開イベントに用いられるにあたり、実験委員会の承認など、何らかの公式な手続きはとられたのでしょうか？

- ・ 当所の動物実験に関連する事項はすべて動物実験委員会に諮りますが、この度のイベントは実験動物開発・管理課の業務の一環としてとらえ、定期的な衛生検査等、管理業務に使用する動物と位置づけておりましたので、個別の実験として委員会の承認は得ておりません。

5. 殺処分にはどのような方法がとられたのでしょうか？

- ・ 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（環境省告示第 88 号）と動物の処分方法に関する指針（総理府告示第 40 号）に従い、実験動物開発・管理課の熟練者が、実験動物に最も苦痛を付与しない方法とされる頸椎脱臼を行い安楽死させました。

6. 今後もこのようなイベントが開催されるのでしょうか？

- ・ 「実験動物ふれあいコーナー」及び実験動物の展示につきましては、ご指摘の点を重く受け止め、開催を中止いたします。

以上